

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	農業と環境	単位数	2単位
学 科	農業科（生活デザイン科）	学 年	1 年
教科書	農業と環境（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。
----------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。学校農業クラブ活動について理解している。	・定期考査 ・小テスト ・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・小テスト ・課題提出 等
主体的に学習に取り組む態度	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	第1章 農業と環境を学ぶ 1 農業学習とは何か 2 農業と環境の学び方 3 学校農業クラブ活動	- 作物や家畜に興味関心を持つ。 - 作物や家畜の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 - 作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できる。 - 学校農業クラブ活動の目標や組織、活動の内容を理解させ、取り組む意欲と態度を身に付ける。
	第3章 栽培と飼育の基礎 1 作物の特性と栽培のしくみ 2 作物をとりまく環境とその管理	
2 学 期	第2章 私たちの暮らしと農業・農村 1 人間と植物・動物のかかわり 2 農業と食料供給 3 農業・農村の役割	- 作物の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 - 作物栽培とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できる。 - 私たちの暮らしと農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 - 私たちの暮らしと農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する。
	4 これからの社会と農業・農村	
3 学 期		私たちの暮らしと農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。
-----	-----------------------

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	総合実習	単位数	3単位
学 科	農業科（生活デザイン科）	学 年	1年
教科書	なし	副教材	なし

学習目標	農業全般に関する体験的な学習で、農業の興味・関心を深める。 栽培に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得、農産物の特性と加工原理について理解し、生産から加工・販売までの過程を実践に必要な態度と能力を身に付ける。 食・農の学習を深め、食・農分野で活躍できる産業人の育成と、自然に親しみ、勤労を尊び、地域を愛する心情を身に付ける。
------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	野菜・草花栽培及びフラワーデザインについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 学校農業クラブ活動について理解している。	・定期考査 ・小テスト ・実習への取組状況 ・課題提出 等
思考・判断・表現	野菜・草花栽培及びフラワーデザインに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・小テスト ・研究発表 等
主体的に学習に取り組む態度	野菜・草花栽培及び家庭科について基礎的な知識と技術が農業や家庭科の各分野で活用できるよう自ら学び、農業・農村の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学期	1 オリエンテーション 「総合実習」学習の意義や内容、学習や評価の方法を理解する。 農業クラブ活動内容を理解する。 2 実習部門 野菜（トマト、ダイコン） (1) 播種 (2) 定植 (3) 除草 (4) 追肥 (5) 収穫	・農産物の栽培や家庭科に興味・関心を持たせる。 ・作物の特性や管理の実習に対して、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・学校農業クラブ活動の目標や組織、活動の内容を理解し、取り組む意欲と態度を身に付ける。
2 学期	草花（苗もの、シクラメン）の栽培 (1) 播種 (2) 施肥・消毒 (3) 出荷 家庭 (1) 食物 (2) 被服	・作物の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・作物栽培の生育環境を多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようになる。
3 学期	フラワーアレンジメント (1) 花材の分類 (2) 花材の準備作業 (3) フラワーアレンジメントをつくる (4) 花材の栽培	・家庭科の各分野について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・家庭科の各分野について多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようになる。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。実習内容は毎時間記録し、評価を受ける。その際、服装・意欲・作業効率・記録方法等について自己評価も実施する。
-----	--

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	農業と情報	単位数	2単位
学 科	生活デザイン科	学 年	1年
教科書	農業と情報（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を身に付ける。
----------	---

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	・定期考査 ・小テスト ・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	・ノート ・定期考査 ・小テスト ・課題提出 等
主体的に学習に取り組む態度	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	第1章 私たちの生活と農業の情報化	・私たちの生活のなかには、情報を活用したさまざまな技術が生かされている。それらの個々の技術に目を向けるとともに、農業にどのように活用されているか、情報化社会におけるモラルとセキュリティの重要性、身に付けた技術をどのように活用するかなどを理解する。
	第2章 社会を支えるコンピュータ	・コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理などを理解する。
	第3章 コミュニケーションと情報デザイン	・様々なアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気付きを引き出す思考技術を理解する。
2 学 期	第4章 スマート農業への展望	・スマート農業やリモートセンシング、AIなどの計測・制御・通信のしくみ、データベースによる情報蓄積や管理の概念、モデル化やシミュレーションの方法や考え方などを理解する。
	第5章 農業情報の分析と活用	・農業情報や環境情報と関連付けた農業技術、経営に関する情報、地理空間情報、環境情報などの収集・蓄積と更新・処理等が、環境保全・農林業に及ぼす意義や役割について理解する。
3 学 期	第6章 農業学習と情報活用	・栽培や飼育のプロジェクト学習に取り組み、その過程で得られたデータを正しく処理し、文章化したり、グラフ化したり、分かりやすくまとめて発表するとともに、その成果を情報発信するための一連の技術を身に付ける。

その他	
-----	--

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	総合実習		単位数	3単位
学 科	農業科（生活デザイン科）		学 年	2年
教科書	なし	副教材	なし	

学習目標	農業全般に関する体験的な学習で、農業の興味・関心を深める。 栽培に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得、農産物の特性と加工原理について理解し、生産から加工・販売までの過程を実践に必要な態度と能力を身に付ける。 食・農の学習を深め、食・農分野で活躍できる産業人の育成と、自然に親しみ、勤労を尊び、地域を愛する心情を身に付ける。
------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	野菜・草花栽培及びフラワーデザインについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 学校農業クラブ活動について理解している。	・定期考査 ・小テスト ・実習への取組状況 ・課題提出 等
思考・判断・表現	野菜・草花栽培及びフラワーデザインに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・小テスト ・研究発表 等
主体的に学習に取り組む態度	野菜・草花栽培及び家庭科について基礎的な知識と技術が農業や家庭科の各分野で活用できるよう自ら学び、農業・農村の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	1 オリエンテーション 「総合実習」学習の意義や内容、学習や評価の方法を理解する。 農業クラブ活動内容を理解する。 2 実習部門 野菜（トマト、ダイコン） (1) 播種 (2) 定植 (3) 除草 (4) 追肥 (5) 収穫	・農産物の栽培や家庭科に興味・関心を持たせる。 ・作物の特性や管理の実習に対して、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・学校農業クラブ活動の目標や組織、活動の内容を理解し、取り組む意欲と態度を身に付ける。
2 学 期	草花（苗もの、シクラメン）の栽培 (1) 播種 (2) 施肥・消毒 (3) 出荷 家庭 (1) 食物 (2) 被服	・作物の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・作物栽培の生育環境を多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようになる。 ・家庭科の各分野について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。
3 学 期		・家庭科の各分野について多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようになる。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。実習内容は毎時間記録し、評価を受ける。その際、服装・意欲・作業効率・記録方法等について自己評価も実施する。
-----	--

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	草花	単位数	3単位
学 科	農業科	学 年	2年
教科書	草花（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花生産と経営に必要な資質・能力を育成する。
----------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	草花生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 草花生産や経営に関する課題を設定し、プロジェクト学習を行う。	・定期考査 ・単元テスト ・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	草花生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・単元テスト ・研究発表 等
主体的に学習に取り組む態度	草花生産と経営について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学期	1 草花生産と消費の動向 2 生活と草花の利用 3 春苗の栽培 （1）播種、鉢上げ、ポット定植 （2）栽培管理	・草花生産と経営の特徴を学ぶ。 ・草花の種類や生産形態の特徴を学ぶ。 ・草花の利用方法について学ぶ。 ・春苗の生産に必要な資質・能力を身に付ける。 ・春苗の利用方法を理解し、栽培や流通、生産や消費の動向について学ぶ。
2 学期	4 草花の特徴と栽培技術 （1）草花の生育と環境 （2）草花の生育と栽培技術 5 秋苗の栽培 （1）播種、鉢上げ、ポット定植 （2）栽培管理 （3）鉢もの、宿根草	・草花の生育における環境条件と栽培技術を、秋苗の生産を通して学ぶ。 ・秋苗の生産と経営に必要な資質・能力を身に付ける。 ・秋苗の利用方法を理解し、栽培や流通、生産や消費の動向について学ぶ。 ・秋苗の生産と経営について、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。
3 学期	6 鉢ものの生産 （1）鉢ものの生産の特色 （2）生産資材と商品化技術	・鉢ものの生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題に取り組む力を身に付ける。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。
-----	-----------------------

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	農業情報活用	単位数	2単位
学 科	生活デザイン科	学 年	2年
教科書	農業と情報（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を身に付ける。
----------	---

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	・定期考査 ・小テスト ・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	・ノート ・定期考査 ・小テスト ・課題提出 等
主体的に学習に取り組む態度	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	第1章 私たちの生活と農業の情報化	・私たちの生活のなかには、情報を活用したさまざまな技術が生かされている。それらの個々の技術に目を向けるとともに、農業にどのように活用されているか、情報化社会におけるモラルとセキュリティの重要性、身に付けた技術をどのように活用するかなどを理解する。 ・コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理などを理解する。 ・様々なアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気付きを引き出す思考技術を理解する。
	第2章 社会を支えるコンピュータ	
	第3章 コミュニケーションと情報デザイン	
2 学 期	第4章 スマート農業への展望	・スマート農業やリモートセンシング、AIなどの計測・制御・通信のしくみ、データベースによる情報蓄積や管理の概念、モデル化やシミュレーションの方法や考え方などを理解する。 ・農業情報や環境情報と関連付けた農業技術、経営に関する情報、地理空間情報、環境情報などの収集・蓄積と更新・処理等が、環境保全・農林業に及ぼす意義や役割について理解する。
	第5章 農業情報の分析と活用	
3 学 期	第6章 農業学習と情報活用	・栽培や飼育のプロジェクト学習に取り組み、その過程で得られたデータを正しく処理し、文章化したり、グラフ化したり、分かりやすくまとめて発表するとともに、その成果を情報発信するための一連の技術を身に付ける。

その他	
-----	--

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	課題研究		単位数	2単位
学 科	農業科（生活デザイン科）		学 年	3年
教科書	なし	副教材	なし	

学習 目標	これまで専攻班等で学習した内容を踏まえ、農業に関する課題を自ら設定し、その問題解決を図る学習の中で、農業の専門性を高め実践に必要な態度と能力を身に付ける。 問題解決能力や自主性を高め、それらを身に付けた食・農分野で活躍できる産業人の育成を目指す。
----------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	これまで学習した知識と技術を再確認し、自らの課題解決に活用できるより高度な知識と技術を深化・総合化できる力を身に付けている。	・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	現状の把握や分析などを通して農業に関する課題を自ら発見し、計画的に課題解決を図り、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	・発表 ・実習への取組状況 ・課題提出 等
主体的に学習に取り組む態度	課題解決に取り組む学習活動を通して、自らの課題解決能力の向上を図り、主体的かつ協働的に農業の振興や社会貢献に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	1 テーマの決定 2 計画・実践 各専攻班の活動例 作物 ダイスでの加工品作り 野菜 水耕葉物野菜での給食献立作り 果樹 季節の果物でジャム作り 食品製造 ニンジンカップケーキ作り はだか麦を使った加工品づくり	・ 広く学んだ農業の知識を元に、経営や管理についての理解を深める。 ・ 専門科目の学習や栽培の経験から、課題発見から解決するための方策、情報収集する能力と態度を身に付ける。 ・ 1・2年生で学習した、専門的な知識・技術の深化を図る。
2 学 期	3 まとめと反省評価	・ 調査・研究・実験等について、問題を解決のための研究活動の成果をまとめ発表する。
3 学 期	4 研究発表会の実施	

その他	実験・実習が中心の実技的な科目である。それぞれが設定したテーマに基づき、研究活動を進めていく。考査はなし。
-----	---

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	総合実習		単位数	1 単位
学 科	農業科（生活デザイン科）		学 年	3 年
教科書	なし	副教材	なし	

学習目標	農業全般に関する体験的な学習で、農業の興味・関心を深める。 栽培に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得、農産物の特性と加工原理について理解し、生産から加工・販売までの過程を実践に必要な態度と能力を身に付ける。 食・農の学習を深め、食・農分野で活躍できる産業人の育成と、自然に親しみ、勤労を尊び、地域を愛する心情を身に付ける。
------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	野菜・草花栽培及びフラワーデザインについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 学校農業クラブ活動について理解している。	・定期考査 ・小テスト ・実習への取組状況 ・課題提出 等
思考・判断・表現	野菜・草花栽培及びフラワーデザインに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・小テスト ・研究発表 等
主体的に学習に取り組む態度	野菜・草花栽培及び家庭科について基礎的な知識と技術が農業や家庭科の各分野で活用できるよう自ら学び、農業・農村の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学期	1 オリエンテーション 「総合実習」学習の意義や内容、学習や評価の方法を理解する。 農業クラブ活動内容を理解する。 2 実習部門 野菜（トマト、ダイコン） (1) 播種 (2) 定植 (3) 除草 (4) 追肥 (5) 収穫	・農産物の栽培や家庭科に興味・関心を持たせる。 ・作物の特性や管理の実習に対して、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・学校農業クラブ活動の目標や組織、活動の内容を理解し、取り組む意欲と態度を身に付ける。
2 学期	草花（苗もの、シクラメン）の栽培 (1) 播種 (2) 施肥・消毒 (3) 出荷 家庭 (1) 食物 (2) 被服	・作物の特性や管理、及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ・作物栽培の生育環境を多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようになる。 ・家庭科の各分野について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。
3 学期		・家庭科の各分野について多面的・科学的に考察し、諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようになる。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。実習内容は毎時間記録し、評価を受ける。その際、服装・意欲・作業効率・記録方法等について自己評価も実施する。
-----	--

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	草花	単位数	3単位
学 科	農業科	学 年	3年
教科書	草花（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花生産と経営に必要な資質・能力を育成する。
----------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	草花生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 草花生産や経営に関する課題を設定し、プロジェクト学習を行う。	・定期考査 ・単元テスト ・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	草花生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・単元テスト ・研究発表 等
主体的に学習に取り組む態度	草花生産と経営について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学期	1 草花生産と消費の動向 2 生活と草花の利用 3 春苗の栽培 （1）播種、鉢上げ、ポット定植 （2）栽培管理	・草花生産と経営の特徴を学ぶ。 ・草花の種類や生産形態の特徴を学ぶ。 ・草花の利用方法について学ぶ。 ・春苗の生産に必要な資質・能力を身に付ける。 ・春苗の利用方法を理解し、栽培や流通、生産や消費の動向について学ぶ。
2 学期	4 草花の特徴と栽培技術 （1）草花の生育と環境 （2）草花の生育と栽培技術 5 秋苗の栽培 （1）播種、鉢上げ、ポット定植 （2）栽培管理 （3）鉢もの、宿根草	・草花の生育における環境条件と栽培技術を、秋苗の生産を通して学ぶ。 ・秋苗の生産と経営に必要な資質・能力を身に付ける。 秋苗の利用方法を理解し、栽培や流通、生産や消費の動向について学ぶ。 ・秋苗の生産と経営について、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。
3 学期	6 鉢ものの生産 （1）鉢ものの生産の特色 （2）生産資材と商品化技術	・鉢ものの生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題に取り組む力を身に付ける。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。
-----	-----------------------

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	食品製造	単位数	2 単位
学 科	農業科（生活デザイン科）	学 年	3 年
教科書	食品製造（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。
----------	---

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	食品製造と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 食品製造や経営に関する課題を設定し、プロジェクト学習を行う。	・定期考査 ・単元テスト ・ノート ・課題提出 等
思考・判断・表現	食品製造と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ノート ・定期考査 ・単元テスト ・研究発表 等
主体的に学習に取り組む態度	食品製造と経営について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学期	食品製造の意義 農産物の加工（穀類、野菜類） 身近な食品の科学	・目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解する。 ・食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解する。 ・加工食品の原料としての穀類、野菜類の種類と特徴を理解するとともに、加工食品の原料となるまでに、どのように加工されるのか理解する。 ・食品に含まれる栄養素や物質の特徴、生物学的な作用により、様々な加工食品が製造されていることを理解する。
2 学期	食品と食品衛生 食中毒 食品の変質とその原因	・食品衛生が、食品の安全性や品質を確保するとともに、人の生命と健康を守ることを目的としていることを理解する。 ・飲食による健康被害の種類を知るとともに、これを防ぐための行政機関、組織及び関係法令の概略を理解する。 ・食中毒の定義を理解し、食中毒の発生状況及び食中毒にも食中毒菌による食中毒だけでなく、様々な種類があることを理解する。 ・食品を変質する要因は複数の要因があり、それらの要因が複雑に絡んでいることを理解する。
3 学期	鶏卵の加工	・代表的な食用卵類である鶏卵の成分と加工特性を理解する。 ・卵を原料とした代表的な加工品であるマヨネーズの製造方法と理論を理解する。

その他	
-----	--

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	生物活用	単位数	2単位
学 科	農業科（生活デザイン科）	学 年	3年
教科書	生物活用（実教出版）	副教材	なし

学習 目標	園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得し、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解するとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を身に付ける。
----------	--

評価		
評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技術	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する基礎的な技術を身に付けている。園芸作物や社会動物に関する知識を総合的に身に付けている。	・定期考査 ・小テスト 等
思考・判断・表現	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する諸課題の解決と生物を活用することによる生活の質の向上を目指して思考を深めることができる。	・提出物 ・授業・実習への参加態度 等
主体的に学習に取り組む態度	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用について興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、実践的な態度を身につけている。	・授業・実習への参加態度 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学期	生物活用の意義と役割 野菜・ハーブの栽培と活用	- 園芸作物や社会動物の活用が生活の質の向上につながることを理解する。 - 園芸作物や社会動物の活用の重要性について理解する。 - 野菜・ハーブの栽培や特性や活用についての基礎的な知識を学習し、活用方法について理解する。 - 野菜・ハーブの加工・利用を理解し、これらの知識を活用して、適切な活用方法を理解する。
2 学期	植物・園芸と人間生活 園芸療法 動物と人間生活	- 身近な植物が持つ特性及び園芸がもたらす効用について理解する。 - 園芸療法の対象者とその実際や効果等を学習し、これらの知識を活用して生活の質の向上に関する具体的な課題を考える。 - 動物との暮らしや動物の活用の関係について理解する。 - 身近な動物が持つ特性及び動物飼育がもたらす効用について理解する。
3 学期	動物介在療法	- 我が国や海外の動物介在療法の現状や役割について理解する。 - 動物介在療法の対象者とその実際や効果等を学習し、これらの知識を活用して生活の質の向上に関する具体的な課題について理解する。

その他	座学と実験・実習を行う。実技的科目である。
-----	-----------------------

<様式1>

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	地域資源活用	単位数	3単位
学 科	農業科	学 年	3年
教科書	地域資源活用(実教出版)	副教材	なし

学習目標	○ 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○ 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○ 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	---

評価		
評価の観点	評 価 規 準	評価方法
知識・技術	地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 行動の観察
思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・ 定期考査 ・ 課題・提出物の内容
主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	・ 出席状況 ・ 発言や行動の観察 ・ ノートの記述内容

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	第1章 地域資源活用とは 1節 地域資源とその活用 2節 地域資源活用とプロジェクト学習 第2章 農山村社会の変化と地域振興 1節 農山村と都市の現状と変化 2節 地域活性化に向けた施策・取組	○課題意識をもって学習に臨み、「農業と環境」で習得したプロジェクト学習の方法をふまえ、地域資源活用に関するプロジェクト学習の意義と役割について明確に位置づけ、プロジェクト学習を活用した学習展開を行う。
2 学 期	第3章 地域資源活用の意義と役割 1節 地域資源の魅力と価値 2節 異業種連携と商品価値の創造 4節 地域資源活用の実践と課題 5節 地域資源の価値と活用 第4章 地域資源の活用と活用 1節 地域資源の活用と活用 2節 観光への活用 3節 商品開発への活用 4節 サービス業への活用	○農山村の特徴を知り、その魅力を理解する。 ○身近な地域を調査して、地域資源を発掘し、資源の磨き方について理解する。 ○自然環境と人の活動がつくる農山村における環境の特徴について理解する。 ○人々の連携や役割分担の重要性など、地域資源を活用する活動の進め方を理解する。 ○対人サービスのマナーについて理解する。 ○安全管理について理解する。
3 学 期	第5章 地域と連携した活動 1節 地域資源のマーケティングとブランドづくり 2節 地域資源を活用したサービス 3節 農業のユニバーサルデザイン化 4節 地域振興活動と評価	○地域へのニーズや地域ブランドづくりについて理解する。 ○異業種連携などによる農業の新しい形態やそのしくみについて理解する。

その他	
-----	--

<様式1>

農業

愛媛県立西条農業高等学校

科目名	デザイン基礎	単位数	3単位
学 科	農業科（生活デザイン科）	学 年	3年
教科書	デザイン入門教室（SBクリエイティブ）	副教材	なし

学習目標	デザインとは何かを学び、「ファッション造形基礎」「フードデザイン」「草花」を主としたデザイン性の求められる科目の質を高めるとともに、効果的な広告を発信できる力を身に付ける。
------	--

評価		
評価の観点	評 価 規 準	評価方法
知識・技術	デザイン技術の活用に関する基礎的な技術を身に付けている。デザインの効果的な手法や基本的なルールに関する知識を総合的に身に付けている。	・定期考査 ・小テスト 等
思考・判断・表現	デザイン技術の活用に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、諸課題を合理的に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	・提出物 ・授業・実習への参加態度 等
主体的に学習に取り組む態度	身の回りのデザインや広告等のメディアに興味・関心を持ち、デザインの現状や課題の改善を目指して、主体的に取り組もうとする態度を身に付けている。	・授業・実習への参加態度 等

	学 習 項 目	学習内容・学習のねらい
1 学 期	1 デザインをはじめる前に （１）デザインにはルールがある （２）デザイン制作の流れを体験しよう （３）情報整理の基本	・デザインのルールを知り、基本に忠実にデザインすることがセンスよりも大切であることを理解する。 ・デザイン制作の一連の流れを理解する。 ・情報の整理方法を理解する。
2 学 期	2 配色の基本 （１）色の基礎知識 （２）色が持つイメージ （３）色の作用と視認性 3 レイアウトの基本ルール （１）揃える （２）反復・繰り返し （３）比較 （４）グループ化	・色の基礎知識を理解する。 ・色の持つイメージを学習し、成果物を作成する際に効果的な色を選択できるようにする。 ・色が視覚に訴える効果を理解する。 ・デザインの４原則について理解し、効果的に活用してデザイン制作する。
3 学 期	4 文字と書体 （１）文字と書体の基本 （２）書体の種類 （３）書体の個性を把握しておく （４）見栄えの良いタイトルの作り方	・文字と書体の基本について理解する。 ・書体の種類について理解する。 ・書体の種類の使い分けを学習し、効果的に書体を選ぶ。 ・情報の受け手を引き付けるタイトル作りについて理解する。

その他	座学と実験・実習を行う実技的な科目である。
-----	-----------------------